

第12回 日本語スピーチ大会 2016

場所：かながわ県民センター 301 号室

開催日：2016 年 11 月 23 日（水）

スピーチ草稿集



氏 名	テ ー マ	出身国	所 属
王 小双（オウ ショウソウ）	日本人の思いやりの心	中国	横浜国立大学
チン ティ タオ	日本につないでくれたベトナムのドンズー日本語学校	ベトナム	横浜国立大学
杜 滄生（ト コウジン）	ぼくの横浜物語	中国	横浜国立大学
安 東妮（アン トウニ）	留学生から社会人になって	中国	横浜国立大学（卒）
ブイ ヴィエト テイエン トゥー	本の役割	ベトナム	翰林日本語学院
胡 啓慧（コ ケイケイ）	日本での4年間の留学生生活を振り返って	中国	横浜国立大学
高 陽（コウ ヨウ）	忘れられた明治の傑僧 ケツソウ ショクワンショウ —釈雲照	中国	東京大学

NPO法人 留学生と語り合う会（RKK）



テーマ「日本人の思いやりの心」

王 小双 （中国出身） 横浜国立大学



皆さん、こんにちは。中国から来ました王小双と申します。
今日は「日本人の思いやりの心」をテーマにスピーチをさせていただきます。よろしくお願いいたします！

「倒れそうな人には、そっと手を差し伸べて、思いやりは、心を温めるプレゼント。ありがとうって言われたら、何故か嬉しくなったよ、思いやりは世界を幸せにする魔法」。皆さん、この「思いやりの歌」を聞いたことがありますか？私は YouTube で初めてこの歌を聞いたとき、素晴らしい歌詞に非常に感動させられました。「水や空気が必要のように、誰もが一人で生きてはいけない。倒れそうな人には、そっと手を差し伸べて、思いやりは心を温めるプレゼント。自分勝手はやめて、みんな笑顔にしたい。思いやりは、世界を幸せにする魔法」と歌は続きます。この歌を世界中の人が誰でも歌えるならば、必ず何かが変わると思いました。

日本に来てから、いつも中国の友達に日本留学生活への感想を聞かれます。その時、私はいつも「日本人は世界に誇ることのできる思いやりの心を持っている民族だから、外国人にとって安心を感じられる温かい国だ」と答えています。日本に来て、まだ1年しか経っていませんが、「日本人の思いやり」について、私なりの感想を皆さんにお伝えしたいと思います。

日本に来たばかりの時、買い物や料理を自分でやらなければならない一人暮らしの中で一番難しかったことは、一緒に話をしたり、遊んだりする友達を作ることでした。最初のころは、いつも一人で出かけたり、食事をしたりしていました。異国で生活することの孤独感がたまに心に湧き上がりました。

ある日、いつものように一人でスーパーへ買い物に行きました。スーパーから帰ろうとしたら、外が既に真っ暗になっていて、「あれ？どっちの道だっけ」と、道に迷ってしまいました。「どうしようかな」と心配でたまりませんでした。スーパーに戻って「店員さんに聞いてみようかな。でも、忙しくて時間の余裕がないから絶対に断られるかな」と思って、ためらっていました。なぜかという、ほとんどの人は、自分がまず最初で、自分に余力があるなら相手にサービスをすると思うからです。

ある日、いつものように一人でスーパーへ買い物に行きました。スーパーから帰ろうとしたら、外が既に真っ暗になっていて、「あれ？どっちの道だっけ」と、道に迷ってしまいました。「どうしようかな」と心配でたまりませんでした。スーパーに戻って「店員さんに聞いてみようかな。でも、忙しくて時間の余裕がないから絶対に断られるかな」と思って、ためらっていました。なぜかという、ほとんどの人は、自分がまず最初で、自分に余力があるなら相手にサービスをすると思うからです。

20 分が経ってからやっと「とりあえず聞いてみよう」と、勇気を奮い起こしてスーパーの店員さんに道を尋ねました。驚いたことに、店員さんが私の話を聞いて、非常に親切に対応してくれました。スーパーから私の家までの地図をプリントし、経路を赤線でマークして、わかりやすく説明してくれました。それだけでなく、「お客様、もし分からなければ、目的地までご案内をさせていただきます」と言ってくれました。そこまで丁寧に対応していただけたとは思いませんでした。店員さんも仕事で忙しいのに、自分より私の事からまず考えてくれたことに感謝の気持ちでいっぱいでした。ささいなことですが、これらの経験が、私の留学生活のターニングポイントになって、「私は孤独ではない。日本人には思いやりの心があるから、こっちから勇気を出して、声をかけたら絶対たくさんいい友達が出来る」と心を開いて、友達が出来、留学生活を楽しく過ごしています。

日本人の思いやりは「道を尋ねれば、親切に教えてくれる」ことだけではなく、「電車に乗るとき、順番を守って列をつくる」、「各交通機関の身体障害者への配慮」や「店員さんの接客態度」など日常生活の様々なところから日本人の「思いやりの心」が見えると思います。

その中で、特に感心したのは、「各交通機関の身体障害者への配慮」です。日本は「思いやりのある」民族だからこそ、体の不自由な方にとっても旅行しやすい国になっていると思います。日本では、駅や電車などの交通機

関だけでなく、主な観光地などでもバリアフリー化が進められています。例えば、駅には車椅子利用者向けのエレベーターがあります。車椅子利用者の降りる駅では係員が待機しています。券売機などに見られる視覚障害者向けの点字も日本人の思いやりの例でしょう。中国でも日本のように障害者に優しくしていけばいいなあと思います。

「相手の立場に立って考え、相手の気持ちを大事にして行動する。」これが日本人の思いやりの精神だと思います。でも、周りの留学生の友達が「日本人は思いやり過ぎて、言いたいことを直接言わなくて、嘘つきじゃないですか」と日本人の「思いやり」を否定しました。確かに日本人は相手への「気遣い」からなかなか「NO」を言えないです。例えば、身近な人間関係でも「要らない」「断る」を言わず、「大丈夫」「ごめん、ちょっと」に言い換えます。でも、これらは「嘘つき」ではなく、相手の気持ちに配慮したから、以上のような曖昧な表現を使ったのではないのでしょうか。「NO」を言わないことが相手への優しさだと思います。

水や空気が必要なように、誰もが一人で生きてはいけません。お互いに配慮し、支え合いながら生きていくのです。誰でも思いやりの心を忘れなければ、きっと世界中が笑顔で溢れると思います。

これからは日本人の思いやりの心を持つように努力していきます。帰国しても、日本の思いやり文化を是非中国の友達に広めたいと思います。

日本につないでくれたベトナムのドンズー日本語学校

チン ティ タオ（ベトナム出身）横浜国立大学



私はベトナムのハノイに約150km 南に位置するタンホア省の山奥の村に生まれ育ちました。山奥はどちらかというと貧しいほうです。子供のころ、友達と同じに、自分の将来について、いろいろな夢を思い描きました。そして、日本留学はその中の一つです。しかし、山奥の村に生まれ育った私にとって、留学という夢は言葉通りの夢に過ぎませんでした。

幸運なことに先輩の紹介で日本留学という夢を実現してくれるドンズー日本語学校を知りました。面接、数学、理科、国語そして英語も含む厳しい選抜試験を経て、私はドンズー日本語学校に入学することが許可されました。新しい旅立ちにまだ戸惑ってい

る私は、期待と不安が入り混じったような気持ちを胸一杯に抱き、列車に乗り、ホーチミン市に向かっていました。

しかし、ドンズーの1つの分校であるビンミー分校に着いてから、最初に目に飛び込んできたのは一面に広がった空心菜の田圃でした。思い描いていたびっしりと並ぶ高層ビルや賑やかな交差点がまさかの空心菜の田圃だったなんて、私は思ってもみませんでした。それどころか、毎日、5時に起きてから、グラウンドを3周走り、学校の全体を掃除し、朝食を済ませてから間もなく授業が始まります。正に、軍隊のような過密なスケジュールでした。毎週のテストがちゃんとできなかったら、先生に呼ばれるはずです。そんなとき、そろそろ見えない黒い将来が来るように想像してしまうほど怖かったです。しかし、ここには、豊かで他のところにはない一つのものがありました。それは、両親代わりの先生方、兄弟代わりの先輩達からの愛情でした。ドンズー日本語学校で学んだのは五十音順、文法、漢字だけではなく、挨拶の仕方、食事後座った椅子を元の場所に戻すことなど小さなことからそして、将来の職業についてのオリエンテーションのようにもっと大きなことまで、ドンズーではないと体験するチャンスがなかなかないとおもいます。

ドンズーの先生方はよくこのように言っていました。

ビンミーでの生活はつらいですが、日本ほどではありません。日本の生活はもっと、もっと厳しいです。私たちは日本語の勉強も大学受験の勉強もそして、バイトもしなければならぬからです。私たちが先にあるそんな日本生活に覚悟を持つになるよう、ドンズーの先生は私たちに毎日厳しい訓練を与えたのです。

ドンズーで8か月ぐらい勉強してから、日本に留学することになりました。私たちはついに、生まれて19年間ぐらい敷かれたレールの上をただ走ってきた人生を終え、道無き道を行くんでいなければならないことになりました。日本に来たばかりの時は先生の言った通り、確かに困ったことが少なくありませんでした。しかし、ドンズーの先輩後輩のつながりが強いからこそ、先輩から沢山助けてもらいました。先輩が茶碗、なべ、布団、そして米も私の寮まで持ってきて、本当に感動しながらドンズーの精神をいつもより実感できました。ドンズーで勉強したすべては2年半ぐらいの日本生活に非常に役に立ちました。ドンズーでの早起きに慣れたからこそ日本に来て自分でも早く起きて、勉強しました。ドンズーで本の読み方を教えていただいたからこそ、日本で理系の本を読んで大学受験を準備しました。ドンズーで漢字を勉強したからこそ、漢字圏の友達に劣らないと誇りに思いました。私は勉強以外何にも知らない子供から両親に経済を頼らず、日本で勉強や生活することができるようになりました。ドンズーは私を向上させました。ドンズーで勉強したのはわずかの期間だけでしたがその価値は図れないほど貴重でした。

校長先生は私たちが日本に来る前の修了式で次のように私たちに語りかけてくれました。

『小さなツバメは春を創ることは出来ません。しかし、小さなツバメの群れは暖かい春をもたらせます。それと同様にたった一人の私是一个の国を発展させることが到底に不可能。しかし、ドンズー日本語学校の学生達が一球となれば、きっとベトナムを発展させることができると信じています。』

その言葉に込められたのはベトナムを発展させる夢に人生を全部捧げる校長先生の信念とその信念を受け継ぐ若者へ託す切実な夢でした。

私達は小さなツバメのように先生の信念を受け継ぎ、そしてその信念を胸に更なる高みを目指し、飛び続けます。明日も、これからも、ずっと。

テーマ「ぼくの横浜物語」

杜 滄塵（中国出身） 横浜国立大学



ニーハオ

みなさん、こんにちは。中国の北京市から参りました杜 滄塵と申します。去年の十月から横浜に来て、今は横浜国大環境情報学府のマスター一年生です。今回、横浜に来た理由及び横浜で体験したことについてスピーチさせていただきます。よろしくお願い致します。

ぼくは昔から日本の文化に興味を持っています。特に、小津安二郎の映画が好きです。小津映画の中の人物はいつも礼儀正しくて、優しく、自分の感情を心の奥に潜ませています。

そして小津さんが穏やかなシーンを通してこれらの人物の人生の侘しさを述べます。小津映画を見ればいつも

心が癒されて、平和になりました。一番好きな「晩春」と「秋刀魚の味」を5回以上繰り返して見ました。小津映画の中の日本人の性格と日常生活がぼくの心の中に深い印象が残りました。そのきっかけで、大学時代に趣味として日本語を独学しました。

大学三年になり、将来のことを考えました。大学を卒業して、すぐ就職をしたくないので、ぼくが好きな日本に留学したいと思いました。大学では物理を専攻して、特に熱力学を研究していました。熱力学の世界がすごく複雑なカオス系が存在するが、その中で不思議な秩序が隠されています。秩序とカオスは物理だけでなく、生化学、生態系及び人類社会などいろんな分野に存在しています。カオスのことをもっと研究したいと思ひまして、インターネットで横国大の雨宮先生が生体反応のカオス研究の専門家ということを発見しました。そして先生にメールをして、研究室に入ることを許されました。これから「ぼくの横浜物語」が始まりました。

去年の十月から横浜に来たとき、綺麗な町と感じました。道に一戸建てが並んでいて、各家に綺麗な庭があります。港の周りにはにぎやかで、おしゃれな西洋風の建物があって、青い海と空が見えます。中国の古都北京で生まれて、育ったぼくにとって、横浜はとてもおしゃれだと感じました。

ある週末鎌倉に行きました。円覚寺で小津安二郎のお墓参りに行きました。そして北鎌倉駅から湘南海岸まで散歩して、静かなお寺でお茶を飲んだり、浜でサーフィンしてる人々の姿を見たり、まるで小津映画を見ているように心が平和になりました。これから鎌倉は、ぼくが日本で一番好きなところになりました。

学校の授業で一番難しいのは専門用語の問題です。ぼくは生体反応を専攻しているので、化学系のテキストが多いです。その中に有機物の名前は全部カタカナで書いてあります。その意味を理解するために、まずグーグルで対応した英語を調べ、またその英語の単語を入力して中国語の意味を調べなければならない。それはとても大変なことになりました。

中国の学校では、普通は試験で成績が決まるが、日本ではプレゼンテーションの方が重視されます。ぼくはゼミの発表で研究室の先輩たちから、研究に対してたくさん質問されまして、研究目的からデータ処理の細かいところまでいちいち確認して、2時間くらいかかりました。日本人の真面目さを本当に体験しました。それは大変ですけどすごく勉強になります。研究室の先輩たちは、学問に対して厳しいですが、普段は優しいです。みんなで研究室で冗談を言ったり、たまにパイナップルジュースを作ったり、餃子鍋を食べたり、すごく楽しい研究生活を過ごしています。

研究以外はファミリーマートでバイトをやっていました。バイトは忙しくて大変でしたが、充実した時間を過ごしました。最初は恥ずかしくて「いらっしやいませ」と「ありがとうございました、またお越しくださいませ」を大きな声で話せないのが、店長に怒られました。店長に「お客様の目を見て笑顔で挨拶が一番大事なことだ。」と教育されて、接客態度の重要性が分かりました。日本人のサービス態度は世界一と言っても、言い過ぎではないと思いました。日本でバイトして勉強した接客技術は、今後どこに行っても役に立つことだと思います。

これからも、横浜でたくさんの友人を作ったり、たくさん学んで、たくさん横浜を感じて、「ぼくの横浜物語」を、たくさんの思い出で、完成させたいと思います。

ご清聴ありがとうございます。謝謝、再見

テーマ「留学生から社会人になって」

安 東 妮 （中国出身） 横浜国立大学卒 社会人



皆様おはようございます。初めまして、安東妮と申します。出身は中国です。留学生として去年 3 月に横浜国大を卒業して、4 月から日本の IT 企業に入社して、今まで一年 7 ヶ月間働いてきました。今日は皆様の前でお話する時間をいただいて、嬉しく光栄だと思いながら、頑張っていきたいと思います。今日はお話の流れを、大学院の入学前、在学中、卒業後の社会人、それぞれの生活と自分が思っている母国と日本の違いの四つの部分に分けてお話をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

2012 年の 4 月に日本の空港に着陸するとき、飛行機の窓から空港のスタッフが手を振っている風景を初めて見て、「ようこそ日本へ」というのを実際に見て感動しました。

その後、大学院の研究室を見学するために指導教員に会ったとき、当時は日本語があまりに喋れず、英語やジェスチャーで先生と博士課程の大先輩に研究室の色々な研究の紹介と入学のためにすべきことの説明をいただきました。2 時間もかかり、結構辛い経験でした。日本人の優しさを感じました。その日の最後に先生に励ましをいただいたので、運良く私は試験に合格しました。

入学した後、前に思っていた修士の生活、つまり、授業を受けて勉強しながら、美味しいお寿司や天ぷらを食べて友達と一緒にどこかへ遊びに行くというような、憧れていた院生の生活を送れるという考えは間違いでした。日本語もできなく、英語もまあまあの状況で、勉強と生活はそんなに簡単ではありませんでした。先生は忙しいので、授業や出張の予定が一杯で、あまり会えず、研究室の先輩たちに教えてもらうことが多かったのが現実でした。英語ですと、日本人にも外国語ですから、わからないところがあったら何回も何回も確認し、時間がもったいないことになってしまいました。日本で留学しているわけですから、日本語でコミュニケーションをすることが一番大事なことに初めて気づきました。皆さんの時間を奪ってとても恥ずかしかったので、恥をかかないように日本語を時間がかかっても、しっかり勉強しようと決心しました。その後、コンビニでのバイトのチャンスをもって、店長、店員さんたちが優しく接してくださって、仕事を間違っても丁寧に教えていただけたことは私が続けて頑張るモチベーションになりました。そして、学校の授業や研究だけではなく、日本語も精一杯頑張ってきました。

ついに修士の生活が一年経っていました。日本での就職も、決意したんですが、就職活動のためにエントリーシートを書く事と、面接で日本語を話す事がうまくいっていなかったのも、自分の考え方を確実に伝えられなくて、物凄く困っていました。就職活動をしながら、研究も大変で 2 年間の留学生活では一番辛い時期だったと思います。しかし、留学生の先輩の張さんが紹介してくれた RKK の先生にエントリーシートを添削していただいて、そのお蔭で最後には就職が決まりました。本当に感謝しました。

社会人の一年目は非常に充実した時期でした。大学で勉強した知識は社会ではあまり通用しないのが現実でした。実用システムに初めて触って、どういう仕組みで開発されているのか、どういう風に運用しているのかを全くわかっていなくて、色んなところをゼロから勉強しなければなりませんでした。日本語もまだ未熟なので、壁にぶつかって仕事でいいパフォーマンスをあまり出せず、日本の方々は私の事をどう思っているのかが、すごく気になっていました。まわりの皆さんに「彼女は日本語がわからないから、仕事ができない」と思われたら、自分としては恥ずかしいので、気持ちが落ち込んでしまいました。そして上司や先輩と相談し、「君は余計なことを考える必要はない、もっと頑張れば仕事ができるようになるよ。」「最初は誰でも仕事できないよ。」「若いうちに

色々な壁にぶつかったほうがいいよ。」などという真心のこもった話をいただいて、皆さんの優しさに再度感動しました。ただ、日本人は外国人にやさし過ぎるのではないか、という事も感じます。

その後、落ち着いて気持ちを奮い起し、仕事と日本語を頑張りました。自分が頑張ったのを上司や先輩に認められて、嬉しいと思いました。会社のバーベキューの幹事を担当することを通じて、色んな事を身につけました。だんだん仕事の余暇時間もできて、リレーマラソン、登山などの遊びに行っても楽しんできました。私にとっては本当に充実した社会人一年生の生活だったと思います。今は社会人二年生になって、振り返ってみると、学生も社会人もまわりとのコミュニケーションが一番大事なことでと実感しています。コミュニケーションができるために、外国人としては日本語ができることは一番重要だと思います。なぜかという、日本で生活しているわけですから。

いよいよ日本に来てから丸々4年になります。何もできていないんですけども、日本で色んな素晴らしいことを体験して勉強させていただき、心を込めて感謝しています。4年前に観光客として日本に来て、街の清潔さ、ルールを守る日本の方々、おもてなしがしっかりしているデパートの店員さんに驚き、さらにこの国が好きになりました。留学生としての生活を始めて、日本の若い女性たちは冬でも足を出しているとか、警察官が自転車に乗っているとか、商店のものは外に出しているなどは自分の国と違って、さすが先進国の日本だと感心しました。後一つ言いたい違いは日本の企業は新入社員の教育をすごく重視することです。私には役に立って、ありがたかったと思います。

最後に今後の予定については、日本語を続けて頑張ってレベルアップしたいと思います。良い人生を送りたいので、引き続き仕事をしながら、色んな事を身につけるように頑張っていきたいです。4年前に私の指導教員に日本の先端技術を勉強したいという日本で留学したい理由を言いましたが、現在はその場にいますから、その大きな話をする前に小さな一つ一つから学びたいと思います。

以上です。ご清聴ありがとうございました。

本の役割

フィ ヴィエト テイエントゥー（ベトナム出身）翰林日本語学院



日本には読書週間があると聞きました。読書週間の説明によると、日本の国民的行事として行なわれ、人間性を育て、形作るのに、本が重要な役割を果せると書かれていました。そこで、私は今日本の役割について話したいと思います。

皆さまの中に、本好きの人がいますか？ 本好きの人にとっては、本は本当に貴重なものでしょう。私も本好きの人です。本には色々な役割があると思っていますので、このスピーチでは、私は自分の経験、観察を通して、本を読むことの利益について、発表します。

では、皆さまが最初に読んだ本は何ですか。私は古典から読み始めました。古典というのは、どんな時代でも、どこの国の人でも読んでいる本なんです。だから、古典を読み、その時代の人々の考え方もわかるようになります。例えば、最近若者がアルケミスト、夢を旅した少年という小説に熱中しているそうです。その中、君が何か心から望んでいると、この宇宙全体君を応援しているぞという有名な文が書いてあります。時代が違っても、この作家の考え方は現代時人である私を感動さ

せました。その上に、これを知っていると、文学的な評価に度々に出ている引用がわかりますし、それから、会話するときも、ちょっと有名な話をしたら、おしゃれな印象があるんじゃないか。つまり、本はまさに、人々の共通点を生み出すものだと思います。

次に、私は記事の本や、常識の本などの情報与える本を読んでいます。こういう本は、国々の文化、政治、経済、豊富な知識を身につけてくれる本で、役に立ちます！最近ニュースに何度も出ている池上さんは有名な筆者でしょう。ベトナムの方々同士でも、有名なんです。彼の「学び続ける力」と言う本のおかげで、様々な問題のパータンを掴んで、新しい問題を見ると、その本質も推測できることをまなびました。また、池上さんは「世界事情」という本があります。この本をよんで、なぜテロを止めることがなかなかできないかや、なぜユダヤ人は困難を合っても、世の中で活躍できるのかなど、理解できないと、この世界の働き方もわからない問題をしっかりとつかむことができました。これも本の大きな役割でしょう。

さらに、本とは間接的な経験させてくれるものです。本を読めば、いろいろなことに接することができ、多くのことがわかってきます。高校生のとき、私が特に好きになった筆者の名前はフーンマイです。彼女は教師としての仕事を辞めて、世界をいろいろな旅して、その地域について本を書いています。例えば、イスラムの道という本が好きです。この本を読んで、以前の良くない先入観も全て消えてしまいました。イスラムの国々には、とてもきれいで、平和的なところも多いです。その上、親切でいつも平和を望んでいるイスラム人が意外に多いということです。

本のもう一つの役割は人生を楽しむ手段だだと思います。具体的に言えば、最近私は普通読んでいる常識の本と全く違う内容の本を読んでいます。建築です。私は、ヨーロッパの古い建築スタイルに興味があります。でも、本で調べたことはありませんでした。ある日、毎日同じことなんて、つまらない、ちょっと別のもの読めばいいなって思って、本屋に駆け込んで、世界の建築一街並みガイドという本を買ってきました。その時から、外で遊んでいても、普段と同じじゃなく、私、美術館から、教会まで、どんなビルにも気になり、うわあ、この教会はゴシックのタッチがあるんじゃないか、あれ、あそこは複雑で、すごく細かいパータンを持っているビルはバランスの感じも完璧だ！ルネサンスの建築に違いないでしょう、わあ、面白いなと、いろいろな発見し、本から学んだことを実際に楽しんでいます。すなわち、本を読めば、つまらないと思ったものも面白くなってきます。

皆様の中に、留学生がいますね。留学はどうでしょうか。言葉が難しいのはもちろん、日本人の礼儀、そして、考え方も理解するために、すごく努力が必要だと思います。だから本は留学生の私には助かります。私は日本に来て、まず一番困ることは日本の方々とのつながりを作ることができないことでした。文化も違うし、歴史や社会問題も深く理解し合えなかったのも、人間関係も薄くなってしまいました。本当に悲しかったです。そのため、私は毎日日本の従来の社会的、経済的、歴史的な問題について、本で調べていました。それによって、どうしてバブル崩壊のあと、日本は格差社会になったと言われているのか、日本の農家がＴＴＰを生き残れるために、どのような対策が必要なのかとか、様々な話題について分かるようになって、それは日本留学の効果ではないか？その他、日本の本読んで、海外の問題に対する日本人の観点はどうかもしは分かるようになりました。だから、留学生の私にとって、本は不可欠なものです！

結末

以上は、自分の経験したことから分かってきた本の役割です。このスピーチのあと、皆様はもっと本を読むことを楽しみ、その様々の知識や良いことが得られますように。

皆様、ご清聴どうもありがとうございました。

佐賀から横浜、日本での4年間生活への振り返り

胡 啓慧（中国出身）横浜国立大学



初めて日本にきた時からもう5年になりました。2011年の9月29日に、学部3年生の私は日本への飛行機に乗って、交換留学生として佐賀大学で1年間留学しました。

初めての留学で、日本語も分からなかった、一緒に行く友達もいなかったです。空港で親と別れた時までは泣かなかったが、佐賀で何回も泣きました。

一番覚えていることは、着いたばかりの時、帰り道に迷ったことです。私は佐賀大学の寮ではなく、外のアパートに住んでいました。ある日の夜、友達と食事した後一人で帰りました。30分以上歩いていたが、家のほうに向かおうとしましたが、最後は自分がどこかにいるかも分からなくなりました。その時は、途方に暮れた私はあ

る女性を見かけてその人に住所を見せて一緒に帰り道を探しました。彼女は車に住所を入力して私をアパートまで送ってくれました。私は下手な日本語でありがとうの感謝の言葉を何回も言いました。佐賀での生活は初めての一人暮らしで、料理、洗濯、買い物なども初めての経験です。そういう挫折や涙は私を成長させてくれました。そして、佐賀での生活は、涙より、嬉しいことのほうがいっぱいでした。

佐賀から帰国して、1年間で大学を卒業した後、又日本に戻りました。でも、佐賀ではなく、横浜です。横浜にいくのも一人で、寮ではなく、外のアパートに住むことになりました。そのアパートは佐賀と同じ値段ですが、大きさは全然違います。それはとても小さいシェアハウスで、女性だけでなく、男性もいます。環境もそんなに良くないところでした。そして、火事も2回起きました。でも、佐賀での経験のおかげで、一人で市役所に行って登録したり、買い物などをしたりしました。そういう外部の環境を気にするより、私は勉強と試験のほうに集中しました。そして、半年で横浜国立大学の修士となって、寮に引っ越しました。その後の2年間はいろいろ経験しながら、修士課程を卒業して、順調に博士試験にも合格しました。

現在は博士課程の1年生として勉強しています。そして、留学生団体横浜地区中国留学生学友会の会長にもなっています。会長になってから、学友会のメンバーと一緒にイベントなどを主催することによって、たくさん面白いことが経験できて、新しい友達も作りました。日本で4年間の生活は私を成長させてくれました。これからも止まらずに進めていきたいです。

忘れられた明治傑僧———釈雲照

高 陽（中国出身）東京大学



皆さんこんにちは、

私は高陽と申します。中国天津市出身で、現在、東京大学大学院の研究生として、宗教社会学を勉強しています。日本に来て2年になりましたが、初めて、皆様の前で、スピーチをすることになりました。人の前で話すのは苦手なので、すごく緊張しています。しかし、先生たちのおかげで、勇気を出して、苦手なことを克服したいと思い、今度のスピーチに参加することになりました。皆さん、よろしくお願いいたします。

今日は、明治時代の偉い僧侶釈雲照大和尚（紙1）について発表させていただきます。初めてのスピーチなので、何を話そうかと悩みました。皆さんが何に興味があるか、わかりませんでした。

例えば、日本の歴史や、日常生活の中で日本と中国文化の違いなどいろいろなテーマを考えてみました。今日のテーマを選んだ理由は、時々散歩しますが、近所に、目白不動金乗院と言う真言宗のお寺があります。（紙2）このお寺はあまり大きくないですが、周りが住宅地なので、とても静かです。お寺の隣は小さな公園があり、モクセイの季節には、花の香りが風に乘って広がっています。その中のお寺はまるで都会の中での別世界みたいな存在です。

もともと、密教信者なので、このお寺のことをとても興味を持ちました。家に帰り、インターネットで、そのお寺のことを調べたら、釈雲照という僧侶の名前を知り、和上についての本を読みました。そうようわけで今日のていまを選びました。===（皆さん、釈雲照と言う人をご存知でしょうか？）

雲照大和尚のことは、ほとんどの人が知らないと思います。彼は明治時代の偉い真言宗の僧侶で、學徳と僧侶としての戒律を厳格に守りましたから、彼の素晴らしく、気高い人格を崇拝して、当時彼のもとに仏教に帰依する人がたくさんいました。その中で、あの時代に有名な人物、例えば、伊藤博文、大隈重信、山県有朋など明治維新の元勳や学者、あるいは、財界人とか天皇の御生母も帰依し教えを請いました。

皆さん、ご存知と思いますが、日本に仏教が初めて伝来したのは、飛鳥時代ですが、初めに日本に広めたのは、推古天皇時代に聖徳太子のおかげです。そして、僧侶の生活規範としての戒律はのちの鑑真和尚が日本に来て、完成しました。それから、仏教は日本で大切な位置になって、日本人が信仰するようになりました。特に、江戸時代で、徳川幕府によって、檀家とお寺の制度が実施されたことによって、お寺が空前の権力を持つようになりました。実は、この制度は人口統計が便利になるように一つの手段でした。つまり、今の戸籍のようなものです。それで、お寺と僧侶たち、大きな権力を持つようになり、僧侶たちが修行を怠けたり、戒律を守らなかったり。しかも、お金のために出家する人が多くなり、僧侶たちがだんだん堕落していく姿を見て、信者たちの心が、仏教から離れて行きました。そして、明治維新があり、「尊皇攘夷」を進めるために、天皇中心にする日本本来の信仰神道を推し進め、一方で、徳川幕府の進めた仏教への抑圧があり、「廃仏棄釈」運動が始められました。その仏教への抑圧の嵐が吹き荒れる中で、今日の主人公雲照大和尚が仏教を守って、民衆が仏教に対する信仰心をよみがえるように、いろいろな努力をしました。

大和尚は、江戸末期、現在の島根県出雲市に生まれ、10歳で出家して、18歳で高野山に登り、伝法灌頂とい

う資格を受けました。明治18年、さきほど、話しましたが、現在の目白不動金乗院に仏教の教えを広めるための学校を開きました。そして、宗教活動や慈善活動をして、多くの人々に尊敬されました。明治12偉人の一人となりました。

雲照大和上のことを見て、中世以後の日本仏教界で、和上はまるで、荒れた海の灯台みたいな存在で人々の行く道を照らしてくれました。現在はほとんどの人々は和上のことを忘れてるように思われます。私は和上のことをとても素晴らしいと思い、尊敬していますので、今日、皆様に話させていただきました。本当はもともと話したいと思いますが、時間の関係で、今日は、これで終わりにさせていただきます。

ご清聴、ありがとうございました。

私たちは：

留学生が留学を終了したとき、振り返って、日本に来てよかったと回想してもらえるよう、できる範囲で留学生を支援します。このことにより、親日家が増えることを期待します。

私たちのモットーは：

みんなで
少しずつ会の
運営に参加しながら
留学生がハッピーになるよう
できる範囲で
楽しくやることです。

NPO 法人 留学生と語り合う会 (RKK)

Ryugakusei to Katariau Kai (RKK)

Relationship and Kindness are the Kings of Peace

Friendship Association for International Students

and Japanese Volunteers